



## グリーン交悠録

### 両陣営の名経営者が腕を競った 「東西打数懇財界ゴルフ会」

財界通信社（本誌）社長 大中 吉一

聞き手 ユーニス社長 兵頭 大輔氏



茨木ゴルフ倶楽部

**前夜祭でベロベロに酔いしれた  
関西財界の重鎮達**

**大中** 兵頭さん、実はこのコーナーで、かねがね取り上げようと思っていたが、結局延び延びになってしまったという取って置きの話題があるのです。

**兵頭** それは興味津々ですね。是非とも今回ご披露願います。

**大中** その昔、「東西打数懇財界ゴルフ会」というものがあり、私も参加していたのです。

**兵頭** どのような方がメンバーだったのですか。

**大中** 関東、関西のそれぞれの経営者が熱戦を繰り広げる会で、西はサントリーの佐治敬三さん、東は藤田観光の藤田一暁さんが、それぞれキャプテンでした。

**兵頭** いきなり、豪華な顔ぶれで驚きました。

**大中** 対戦場所としては、西がジャパンエース、東がフジタ工業（現・フジタ）がそれぞれ運営するコースを選び、春と秋の年2回、東西15名ずつメンバーを募って臨むのです。

**兵頭** 結構大所帯ですね。

**大中** そうです。そして、ここから

が、この会がユニークと言われる神髄です。それぞれ15名の打数を足して、1打でも負けた陣営が、前夜祭のパーティーの費用を総て持つ、という過酷な勝負なのです（笑）。ちなみに前夜祭の会場は、西が京都、東は東京のそれぞれ某高級料亭でした。

**兵頭** なかなか洒落た勝負ですね。

**大中** そうです。西では佐治さんの他、ダイキンの山田稔さん、森下

仁丹の森下泰さん、東では永谷園の永谷嘉男さん、ホテルニューオータニの大谷米一さん、浜井産業の浜井公志さんといった方々が、代表選手として、大会を大いに盛り上げて下さったのを覚えています。

**兵頭** 叶うならば、私も1度覗いてみたかったですね。

**大中** とりわけ、前夜祭の盛り上がりはかなりのものでした。皆ベロベロになりながら、相手の腕前を褒め称え、明日のゴルフでの健闘・奮闘を約束したものです。

**兵頭** ゴルフが目的なのか、宴会が目的なのか、よく分からない状態ですね（笑）。

**大中** 全く、ご指摘のとおりです（笑）。しかし、これこそが、ゴル

フだからこそなし得るものではないでしょうか。まさに、互いの感情をぶつけあった、懇親ゴルフ会の神髄だったと言ってもいいでしょう。

**兵頭** このゴルフ会は、現在も存続しているのですか。

**大中** 今も健在です。西のキャプテンが誰かは存じ上げませんが、東のキャプテンは、確か永谷嘉男さんの息子、栄一郎さんが引き継いでいたと思います。とにかく、懇親が目的ですので、日頃のストレスを解消しながら和気藹々と続けてもらえればと思います。

**兵頭** そのとおりです。

**大中** そうしてもう一つ、私が手掛けた、思い深いゴルフ会があったのです。この話もご披露しましょうか。

**兵頭** 是非とも、お願いします。大中さんが持えた会ですから、これもまたユニークなんでしょうね。

**大中** ええ（笑）。「関西なにわ会ゴルフ会」という名称で、こちらは要するに、大阪に駐在するに日銀支店長や近畿財務局長、近畿通産局長との交流を図る会です。

**兵頭** 在阪の大物官僚を囲む会、ですね。

**大中** 今から20年以上も前のことで



すが、当時は、日銀大阪支店長が田村達也さん、近畿財務局長が伏屋和彦さん、近畿通産局長が一柳良雄さん。一方、関西財界からは、大阪商工会議所会頭の佐治敏三さん、関西連会長の宇野 収さんといった方々でした。そして、これに関西の若手メンバーも招待し、懇親も兼ねて、年に2回、茨木ゴルフ倶楽部を舞台にゴルフを楽しんだのです。

**兵頭** しかし、経済官僚と関西財界との懸け橋的なゴルフ会を設立した狙いはなんですか。

**大中** そもそも日銀大阪支店長や、近畿財務局長、近畿通産局長は、7月に着任し、翌年の6月には離任するというのが通例で、僅か1年ほどしか大阪に滞在していないのです。このため、大阪の経営者からは以前から「彼らと会う機会すらない」という不満の声がありました。

**兵頭** 確かに、1年ほどでは、やつと顔と名前が一致した頃にはもう異動、という状況ですからね。

**大中** しかし、経済官庁の出先機関のトップと面識がないようでは、関西経済の復興などままなりません。このため、ゴルフを通じて交流を深めてはどうかと、私が買って出たと

言うわけです。そして年に4回ほど、吉兆で懇話会を行ない、また年に2度ほどゴルフをプレイするというメニューでした。

**兵頭** こちらも、錚々たる顔ぶれだったんですね。

**大中** 今は「倫理、倫理」と世間がうるさいものですから、残念ながらこうした会を消さざるを得なくなりました（笑）。

**兵頭** 古きよき時代の話ですね。

**大中** ただ、1日中自分の執務室に閉じこもっているのではなく、たまには北新地や京都などへと場所を変え、夜の街を肌身で感じる事が、関西連や同友会、商工会議所にとつて経済の動向を感じ取る上でも大事ではないか、と感じます。

**兵頭** ごもつともですね。経済の変化の予兆は、市井で真つ先に起きますから。

**大中** 今後とも新時代に向けて、似たような会ができて、関西経済を復興するための一助となればいいのだが、と常々考えています。例えば来る2025年の大阪万博誘致問題ですが、大阪府知事と大阪市長がどれだけ頑張っても、2人だけでは限界があります。国際博覧会ですから、

国の全面協力がなければ誘致は難しいでしょう。そのためには、東京にいる安倍首相、麻生副総理などと頻りに懇談し、アピールし続けることも非常に重要なのです。

**兵頭** カジノ構想に関しても、全く同じですね。

### 訪日外国人4000万人達成 には真「おもてなし」を

**大中** 仰るとおりです。政府は当初目標を前倒しして、「2030年までにインバウンド（訪日外国人）4000万人」という目標を掲げ始めていますが、これを達成するためにも、前述したような大阪万博やカジノといったアイテムは重要です。

**兵頭** なるほど。

**大中** また、2017年には2800万人に届くとも言われているインバウンドですが、この数値をさらにアップさせるには、やはり、彼らが「やはりニッポンは素晴らしい」と、心から感動する渡航地とならなければなりません。

**兵頭** そのとおりです。

**大中** ですから、例えば、私達が外国人観光客に出会ったならば、気軽に「ナイス・ミート・ユー」「メイ・

アイ・ヘルプ・ユー」などと声をかけることも非常に大事なのです。

**兵頭** 日本人一人ひとりの、ちょっとした「おもてなし」の心ですね。

**大中** そうです。そして、彼らが「日本を訪れて本当によかった、是非ともまた行きたい」と、感動を与えることが、リピーターのアップにも直結するし、また、新たなインバウンドを呼び寄せてくれるのです。ただ単に、「安心・安全な日本」と念仏のように唱えていてもダメです。

**兵頭** 「観光戦略」の神髄ですね。

**大中** 日本には、京都、奈良以外にも、岐阜の白川郷や和歌山県の熊野古道など魅力的な場所は枚挙に暇がありません。もちろん、近年はこうした場所にも外国人が多く訪れているようです。いずれにせよ、「4000万人」を本気で考えるなら、1割程度のリピーター率を確保することが望ましい。それには、国民全体がさらなる「おもてなし」の心で彼らを迎えることが大事で、これがひいては日本経済を活性化させるのです。少々大袈裟になりますが、そのためにも、ゴルフを通じた懇話会はとても重要なのです。

**兵頭** 有難うございました。